

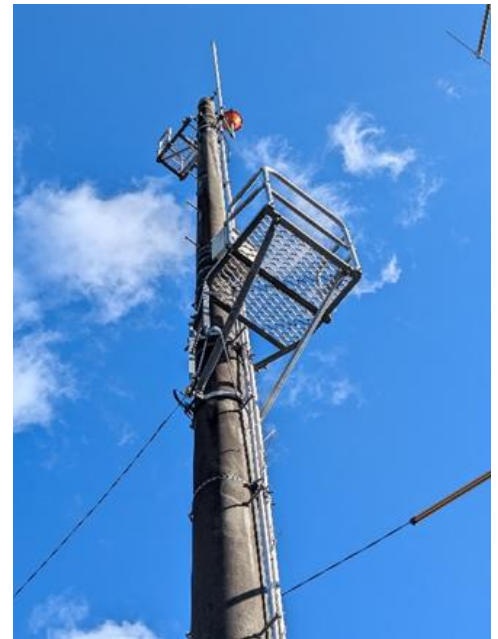
第43回「視程観測灯について」

航空気象群ホームページ「気象の杜」をご覧ください、ありがとうございます。今回は「日本のひなた」宮崎県にある新田原気象隊から、全国で新田原基地にのみ設置されている「視程観測灯」（約15～20mの高さの電柱のような柱の柱頭にライトが設置されたもの）を紹介します。

航空気象観測においては、飛行場周辺の視程と滑走路視距離等を観測します。視程とは、観測場所から見ることのできる距離の程度を表す気象用語で、どの程度、見通しが効くかという情報です。視程の観測の成果は、気象解析のほか、交通機関の運行、もしくは大気汚染の監視のため等に利用されており、特に航空機の離着陸には欠かせません。

航空機の離着陸時において、パイロットが飛行場や滑走路を視認できることは航空安全上、極めて重要です。

このため、航空法施行規則に基づく飛行方式の気象条件には、天候が良くパイロットが目視で障害物等を確認できる有視界気象状態、天候が悪く目視が困難な場合に航空計器に頼る計器気象状態というものが定められているほか、飛行場毎に航空機が離着陸できる視程または滑走路視距離の値が最低気象条件として定められています。視程等が最低気象条件未満の場合、航空機は、その飛行場を離着陸できません。視程及び滑走路視距離の観測成果は、離着陸の可否の判断、飛行方式の決定等に直接的に関係するものであって、極めて重要な情報です。



仲間原の視程観測灯

新田原基地は海拔80m程度の台地（通称：新田原台地）上に位置しており、基地周囲の5km付近は大半が低い平野部であり、視程目標となる地形や地物は僅かしかありません。そのため、新田原基地の周辺には視程目標物として視程観測灯が4つ設置されています。特に夜間における視程観測は、視程観測灯が必要不可欠なものとなっております。

急激な天候悪化時においても機を失することなく気象観測が実施可能となっています。視程観測灯の活用効果としては、視程観測値の精度向上、天候悪化時の視程悪化兆候の早期察知、視程悪化時等の予報精度の向上及び急激な天候悪化時の対応の時間的余裕、正確な気象変化の把握と信頼度の向上が挙げられます。

視程観測灯の1つは、基地から約6 kmの仲間原（ちゅうげんぼる）という所にあります。この場所は天候によって高度の低い雲が広がったり、周辺の川から発生する霧等によって急激な天候の悪化が発生しやすいため、新田原基地へ離着陸する航空機にとって運航上、大きな影響をもたらすことがあります。そのような気象現象をいち早く察知し、飛行安全に寄与するため、視程観測灯を用いて夜間等における視程の観測を実施しています。仲間原の視程観測灯が確認できれば、視程が6 km以上あると判断できます。

かつては全国にある他の基地にも設置されていた視程観測灯は、今では新田原基地のみの設置となってしまいましたが、今でも新田原基地における飛行安全の一翼を担っています。

出典：「航空気象観測指針」（気象庁）
「気象観測の手引き」（気象庁）